

地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和5年度の業務実績に関する評価結果（案）

第1項 全体評価

1 評価結果

北九州市立病院機構における令和5年度の業務実績の全体評価は、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」とする。

2 評価理由

第1期中期計画期間の最終年度である令和5年度の業務実績の大項目評価について、第2、第4は「評価A」、第1は「評価B」、第3は「評価C」となった。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したものの、感染状況に応じて病床を確保し、コロナ対応を継続するとともに、各病院の特色を生かし、高度で専門的な質の高い医療を提供した。

また、理事長のリーダーシップの下、市の定める第2期中期目標の実現に向け市と綿密に協議し、第2期中期計画を策定した。

このため、令和5年度の業務実績は「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価した。

なお、財務内容について、新型コロナに関する県の補助制度が大幅に縮小されたこともあり、営業収支及び経常収支が4年ぶりの赤字となったが、入院・外来患者数の増加に伴い手術件数・病床利用率は増加・向上している。引き続き、経営健全化に向けた取組を着実に実施することを期待する。

3 大項目別の評価結果一覧

大項目	評価項目数	小項目評価数					平均	大項目評価
		評価5	評価4	評価3	評価2	評価1		
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	12	0	5	7	0	0	3.4	B
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	8	0	4	4	0	0	3.5	A
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	4	0	0	2	2	0	2.5	C
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	3	1	0	2	0	0	3.7	A
合計	27	1	9	15	2	0	-	-

【大項目評価】

評価S：評価Aを満たした上で、特筆すべき進捗が認められる（市長が特に認める場合）
 評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる（小項目評価結果の2以下が無く、平均が3.5以上）
 評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる（小項目評価結果の2以下の項目評価数が2以下で、小項目評価結果の平均が3以上）
 評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている（小項目評価結果の平均が3未満）
 評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある（市長が特に認める場合）

【小項目評価】

評価5：年度計画を大幅に上回って実施している。
 評価4：年度計画を上回って実施している。
 評価3：年度計画を順調に実施している。
 評価2：年度計画を十分に実施できていない。
 評価1：年度計画を大幅に下回っている。

第2項 項目別評価（評価理由）

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

感染症医療において、新型コロナウイルス感染症5類移行後も県の定める病床確保計画のフェーズ等に従い適切に病床を確保し、医療センター、八幡病院ともに積極的に入院患者を受け入れるとともに、新型コロナ患者の手術や分娩も行うことにより、適切な医療提供を行った。

救急医療において、八幡病院では、消化器内科1名、麻酔科1名、救急科2名、精神科（精神科救急）1名、歯科（顔面外傷等）1名を増員し、救急医療体制を強化している。受入件数及び応需率ともに増加・上昇しており、地域における救急医療の中核施設としての役割を果たした。

医療の充実において、医療センターでは、地域がん診療連携拠点病院として、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や放射線治療機器「リニアック」など高度医療機器の活用、小児救急医療における平日の時間外診療を開始すること等により患者数が増加した。八幡病院においては、「小児臨床超音波センター」の設置やハイブリッド手術室の運用など、市立病院として必要とされる医療の提供に努めた。

医療の質の確保のため、両病院とも人材の確保や育成に向けた取組を進めるとともに、クリニカルパス件数・適用率の増加・向上、チーム医療の推進や医療安全対策、治験・臨床研究の推進など、年度計画に基づいた取組を着実に進めた。市民・地域医療機関からの信頼確保については、両病院ともに紹介率が向上するなど連携が進んでいる。

以上のことから、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

幹部職員で構成する「経営本部会議」を毎月開催し、病院経営状況の管理体制を強化、毎月の目標管理と要因分析など経営課題に迅速に対応するための取組が推進されている。

病床利用率は向上したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍以前の水準には回復していない。一方、適切な診療報酬確保への取組として、施設基準の積極的な取得や診療報酬加算の算定率向上による増収は両病院合計で前年度比2.5億円となった。

加えて、価格交渉の徹底や第2期中期計画期間中の黒字化を前提とした医療機器等購入計画を策定するなど、経費節減・抑制対策に積極的に取り組んだ。

このため、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

コロナ補助金の大幅な縮減に加え、新型コロナによる患者減の影響継続、委託料等の高騰により、営業収支及び経常収支が4年ぶりに赤字となった。

引き続き、第2期中期計画に基づき、地域連携や救急による患者増、加算による単価増などの収益増加の取組のほか、医薬品・診療材料・医療機器等の購入価格削減、委託の見直しなどの費用削減に取り組み、経営健全化を進めるとともに、長期収支の均衡を図っていく必要がある。

このため、「中期計画の実現のためにはやや遅れている」と評価する。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

看護専門学校において、卒業生の市内就職率が90%以上と高い水準を維持しており、地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ、効率的な運営を行っている。

加えて、医療センターの老朽化対策を計画的に実施するとともに、市の定める第2期中期目標の実現に向け、市と綿密な協議のもと第2期中期計画を策定したことから、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。

地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和5年度の業務実績に関する評価結果(案)

項目	令和5年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項				
1 政策医療の着実な実施				
(1) 感染症医療	<ul style="list-style-type: none"> ●第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても、県の重点医療機関(令和5年9月30日まで)として積極的に入院患者の受入れを実施。 ●新型コロナウイルスの5類感染症移行後も県の定める病床確保計画のフェーズ等に従い適切に病床を確保。新型コロナ患者の入院を積極的に受け入れるとともに、新型コロナ患者の手術や分娩も実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・確保病床 医療センター:最大18床(前年度32床) 八幡病院:最大24床(前年度23床) ・新規入院患者数 医療センター:317人(前年度 363人) 八幡病院:247人(前年度 298人) ・手術件数 医療センター: 17件(前年度 10件) 八幡病院: 2件(前年度 8件) ・分娩件数 医療センター: 2件(前年度 18件) ●新型コロナ患者の長期入院等に適切に対応するため、各病棟からの看護師等の応援体制を構築し、適切に運用。 ●新型コロナに対応できる職員の育成のため院内研修及び訓練を継続的に実施 	4	4	<p>○新型コロナウイルス感染症に対し、第二種感染症指定医療機関である医療センターに加え、八幡病院においても新型コロナウイルス感染症の重点医療機関(令和5年9月30日まで)として病床を確保し患者を受け入れたほか、新型コロナウイルス感染症患者の手術や分娩を行った。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策への貢献を踏まえ、評価「4」とした。</p>
(2) 周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ●医療センターにおいて、周産期母子医療センターとして、他病院で受入困難な新型コロナに感染した妊婦の分娩を適切に実施。24時間体制でハイリスク妊娠や新生児に高度で専門的な医療を提供。北九州地域における中心的な役割を担った。 ●周産期医療提供体制の適正化に向け、関係機関との調整に取り組み、地域全体の医療提供機能を踏まえた運用を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・母体搬送件数 53件(前年度 59件) ・NICU受入患者数 2,479件(前年度2,420件) 	3	3	<p>○母体搬送件数は微減。 NICU受入患者数はコロナ禍以前と同水準まで増加。 [R1:2,476件→R2:1,958件→R3:2,031件→R4:2,420件→R5:2,479]</p> <p>○他病院で受入困難な新型コロナウイルスに感染した妊婦など2件の新型コロナウイルス感染患者の分娩を実施。周産期母子医療センターを24時間体制で運営し、高度で専門的な医療を提供しており、順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>
(3) 小児救急を含む救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ●八幡病院において、「救命救急センター」「小児救急センター」としての役割を担った。 ●救急外来、小児科外来、小児集中治療室(PICU)、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供。 ●救急科及び関連診療科の医師確保に向けて、理事長・院長等による大学医学部等への働きかけ、医師紹介会社の情報提供活用。 ●初期研修医8名のほか、他病院の研修医を受入れ、人材育成を通じた救急医の受入体制を強化。 ●積極的な救急受入を実施し、受入件数は増加。応需率はコロナ以前の水準には及ばないが、前年度に比べて上昇。 <ul style="list-style-type: none"> ・救急車応需率 75.1%[R1: 94.0%→R2: 80.6%→R3: 81.7%→R4: 70.1%] ・救急受入件数 4,654件[R1:3,604件→R2:3,053件→R3:3,463件→R4:4,334件] ・救急患者手術件数 401件(前年度 348件) ・小児救急ワークイン件数 29,199人(前年度 23, 223人) 	4	4	<p>○令和5年度から消化器内科1名、麻酔科1名、救急科医師2名、精神科(精神科救急)1名、歯科(顔面外傷等)1名を増員し、救急医療体制を強化していることは評価できる。</p> <p>○救急患者の受入件数の増加に伴い応需率はコロナ以前の水準には及ばないが、昨年度に比べ上昇しており、救急受入目標件数4,000件を上回って実施していることから評価「4」とした。</p>
(4) 災害時における医療	<ul style="list-style-type: none"> ●地震を想定したBCP訓練に際し、DMOC訓練を実施。災害拠点病院全体の連絡訓練を実施。 ●災害時に備え、災害医療研修センターにおける人材育成に向けた取組みを実施。 ●海上保安庁や市消防局ヘリコプターによる離陸訓練を実施。患者受入れ等で屋上ヘリポートを適切に活用。 ●災害時の適切な対応に向けて、両病院において、各種訓練や研修等を適切に実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・医療センター:能登半島沖地震被災地にJMATを派遣 ・八幡病院 :能登半島沖地震被災地にDMAT・JMATを派遣 ●災害時の非常用電源や備蓄資材については、国の基準に基づいて必要な整備を行った。 ●BCP委員会において、業務継続計画(BCP)に基づいた対策の検討や訓練に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・医療センター:火災訓練、大規模災害時対応訓練を実施 ・八幡病院 :サイバー攻撃やクラスターを想定したBCP計画を新たに整備 <p>地震やサイバー攻撃を想定した災害訓練を実施</p>	3	3	<p>○災害時における医療について、災害発生時に備えた研修・訓練等の取組みを継続して進めるとともに、能登半島沖地震被災地にDMATを派遣するなど、災害拠点病院としての役割を適切に果たしており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

項目	令和5年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実				
(1) 医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ●がんゲノム医療連携病院として、九大病院との連携を推進し、エキスパートパネル(治療方針決定の専門家会議)を円滑に実施。 ●一人ひとりのがん遺伝子変異に合わせた治療等を行う「がんゲノム医療」について勉強会を開催。 ●手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術件数が順調に増加。 <ul style="list-style-type: none"> ・消化器外科 78件(前年度 61件) ・泌尿器科 116件(前年度127件) ・婦人科 28件(前年度 22件) ・呼吸器外科 24件(前年度 10件) ●リンパックによるがん治療を2台体制で実施。活用件数は増加。 <ul style="list-style-type: none"> ・強度変調放射線治療110人(前年度90人)、定位放射線治療39人(前年度35人) ●がん看護外来でのがん患者指導管理料の算定件数増加などへの取組みを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・がん分野の認定看護師介入件数 3,180件(前年度 2,939件) ●緩和ケアセンターでのがん患者指導管理料の増加などへの取組みを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・「つらさのスクリーニング」実施件数 1,899件(前年度 1,755件) ●医師・看護師等によるチーム医療を充実させるため、既存チームの活動を拡大。 ●リンパ浮腫手術対象患者の地域からの紹介受入を開始。 ●リンパ管吻合術 3件 ・リンパ浮腫指導管理料 260件 ●救急車受入目標件数(2,000件)を大幅に上回った。 <ul style="list-style-type: none"> ・小児救急医療における平日の時間外診療を開始。R5救急車受入件数 2,436件(前年度 2,143件) ・がん患者数 5,534人(前年度 5,255人) ・放射線治療件数 10,840件(前年度 10,650件) ・化学療法件数 18,618件(前年度 17,107件) 	4	4	<p>○地域がん診療連携拠点病院として、新型コロナによる受診控えの影響を受けつつも、医療センターの特色であるがん診療の高度で専門的な医療の提供・充実を進め、患者数は前年度に比べ増加している。</p> <p>○緩和ケアセンターや薬剤師外来、チーム医療の充実など、がん患者や家族の支援機能を強化しているほか、がん治療に関する地域医療機関との連携強化を進めていることは評価できる。</p> <p>○救急医療については、小児救急医療における平日の時間外診療を開始するとともに、救急車受入目標件数を大幅に上回った。</p> <p>○以上のことから、年度計画を上回って実施していると言えるため、評価「4」とした。</p>
(2) 八幡病院	<ul style="list-style-type: none"> ●小児の専門性の高い分野について、常勤医のほか、外部医療機関からの診療応援により、医師の確保に努めた。 ●救急外来、小児科外来、小児集中治療室(PICU)、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供。 ●小児科専門医の基幹研修施設として、専攻医2名を受入れ、人材育成を通じた診療機能の強化に取り組んだ。 ●小児科医が実臨床の中で自ら超音波検査を行う「小児臨床超音波センター」を日本で初めて設置。 ●医師、看護師、薬剤師等で横断的に組織した消化器・肝臓病センターにおいて、ハイブリッド手術室を活用した医療を提供。 <ul style="list-style-type: none"> ・小児科患者数(外来) 53,881人(前年度 46,142人) ・小児科患者数(入院) 22,742人(前年度 20,920人) 	3	3	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響により小児科患者数は減少している。外来・入院ともに昨年度より患者数が増加したものの、入院はコロナ禍以前の水準には回復していない。</p> <p>・小児科患者数(外来) [R1:51,412人→R2:32,424人→R3:41,371人→R4:46,142人→R5:53,881]</p> <p>・小児科患者数(入院) [R1:37,255人→R2:21,894人→R3:25,099人→R4:20,920人→R5:22,742]</p> <p>○医療提供体制においては、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に診療機能の充実に努め、ハイブリッド手術室の運用や日本で初めての小児臨床超音波センターの設置など、適切な医療を提供しており、年度計画を順調に実施していることから評価「3」とした。</p>
3 医療の質の確保				
(1) 人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ●職種ごとに複数回の採用試験実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・医 師 : 医師事務作業補助者の定数増員、人材の確保が困難な場合は、派遣枠を拡大して対応。医師紹介会社25社と契約を締結し、大学医局からの派遣以外での医師の採用を進め、八幡病院で常勤救急医2名(常勤麻酔科医・常勤救急科医)を採用。 ・看 護 師 : 看護補助者の人員確保、事務作業サポート職(病棟クラーク)の定数増、認定看護師の専任配置。 ・事 務 職 員 : プロパー職員の採用を進め市派遣職員を減少、新規採用職員研修や階層別研修を実施、院内教育を推進。 ●関係大学との連携強化に向けて、理事長・院長等による訪問活動を積極的に実施。 ●日本看護協会が提示するクリニカルラダーを参考に、習熟レベルに応じた研修プログラムを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・専門医資格取得数 医療センター:226件(前年度 214件) 八幡病院:122件(前年度 112件) ・指導医資格取得件数 医療センター:159件(前年度 124件) 八幡病院: 54件(前年度 52件) ・初期臨床研修医 医療センター: 9人(前年度 7人) 八幡病院: 8人(前年度 8人) 	3	3	<p>○医療スタッフの確保や事務職プロパー職員の採用を進めたほか、各種研修の充実など、医療スタッフの専門性や医療技術向上への取組を行い、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

項目	令和5年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
(2) 医療の質の確保、向上	<ul style="list-style-type: none"> ●医師、看護師、理学療法士等の多職種が連携した「チーム医療」の推進に向けて、既存チームの活動強化のほか、新たなチームを立ち上げて活動を開始。 <ul style="list-style-type: none"> ・医療センター：肥満診療手術実施に向け体制を検討。 ・八幡病院：緩和ケアチーム、術後疼痛管理チーム、報告書確認対策チームを新設。 ●クリニカルパスの将来的な目標適用率を設定、パスの作成と活用について積極的に働きかけ。 <ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルパス件数 医療センター：309件(前年度 309件) 八幡病院：377件(前年度 356件) ・クリニカルパス適用率 医療センター：46.6%(前年度 43.8%) 八幡病院：55.9%(前年度 45.6%) ●手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術件数は、順調に増加。 ●第三者機関による病院機能評価(Ver.3.0)を八幡病院において計画通りに適切に受審し認定を受けた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム医療の推進や高度医療機器の運用による手術件数増加など、医療の多様化・高度化への対応を推進している。 ○クリニカルパス適用率は両病院で向上した。 ○八幡病院において、第三者機関による病院機能評価(Ver.3.0)を適切に受審し、認定を受けた。 ○以上のことから、年度計画を上回って実施していると言えるため、評価「4」とした。
(3) 医療安全の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の医療機関や行政職員を対象に、新型コロナウイルスを含めた感染防止対策研修を実施。 ●医療安全ラウンドを月1回実施。各種研修は主にeラーニングを活用して適切に実施。 ●多職種参加のRCA分析(根本原因分析)を実施し、分析結果を防止対策に反映しマニュアルや手順を変更。 ●院内迅速対応チームについての運営委員会やワーキンググループにおいて、マニュアルの検討や見直しを実施。 ●業務継続計画(BCP)の理解を深めるための研修や災害時安否確認システムの使用訓練による危機管理体制を強化。 <ul style="list-style-type: none"> ・研修等実施回数 医療センター：41回(前年度 48回) 八幡病院：48回(前年度 49回) ・インシデント・アクシデントレポート提出回数 医療センター：1,898回(前年度 1,384回) 八幡病院：1,148回(前年度 1,363回) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○医療事故や院内感染防止のための研修等により、安全で安心な医療を提供するための取組を行っている。 ○業務継続計画(BCP)の研修等により、病院機構全体の危機管理体制の強化を図っている。 ○医療安全への対応について、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。
(4) 医療に関する調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ●医療センターの治験研究推進室の機能を令和3年度に機構本部に移管し、新たに臨床研究推進センターを立ち上げ、両病院の治験・臨床研究の情報を一元化し、各種委員会やセミナー開催により、治験等を推進。 ●治験・臨床研究の推進に向けて、施設や設備等の充実による体制整備を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・治験等実施件数 医療センター：291件(前年度 183件) 八幡病院：87件(前年度 50件) ・治験等収益 77百万円(前年度 29百万円) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度から病院機構本部に両病院の治療・臨床研究を一元管理する臨床研究推進センターを移管し、治験等の推進に取り組むなど年度計画を順調に実施している。 ○治験等実施件数及び治験等収益ともに、前年度より増加し、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・治験等実施件数 医療センター [R1:109件→R2:181件→R3:286件→R4:183件→R5:291件] 八幡病院 [R1: 31件→R2: 21件→R3: 54件→R4: 50件→R5: 87件] ・治験等収益 [R1:34百万円→R2:46百万円→R3:28百万円→R4:29百万円→R5:77百万円]
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保				
(1) 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ●外部講師を招いた接遇研修などを実施。 ●セル看護方式やPNSの導入に向けたマニュアル改定やモデル病棟での試行実施し、評価・改善。 ●院内の設備等の整備により、受付・診察の待ち時間の短縮。 ●医療センターの女性専用病棟を乳腺外科、産婦人科、泌尿器科にて円滑に運用。 ●院内における連携機能やベッドコントロール機能の強化など、入退院支援の機能強化。 <ul style="list-style-type: none"> ・医療センターでは入退院支援、ベッドコントロール機能を持つ患者支援センターの活用を拡大。 ・八幡病院では退院支援基準を策定しマニュアルを改訂。R6からのベッドコントロール室設置を検討。 ●広報誌やホームページで診療内容や治療実績等の情報提供、ホームページは大幅な見直しを実施。 ●診療内容等を広く発信するため、各種ソーシャルメディアを活用、YouTubeで市民公開講座を配信するなど、情報発信に努めた。 ●新型コロナ感染防止の観点から開催を見送っていた市民公開講座等を再開。 <ul style="list-style-type: none"> ・医療センターでは、市民公開講座のYouTube配信や出前講座を積極的に実施したほか、150周年記念イベントを実施。 ・八幡病院では、小児アレルギー関連講座を複数回実施したほか、出前講座についても積極的に実施。 ●接遇研修回数 医療センター：26回(前年度 13回) 八幡病院：13回(前年度 7回) ●患者満足度調査結果 医療センター：入院：4.1点 外来：3.7点 八幡病院：入院：4.1点 外来：4.0点 ●広報誌等発行回数 医療センター：4回(前年度 4回) 八幡病院：18回(前年度 14回) ●市民向け健康講座等開催件数 医療センター：18回 八幡病院：7回 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○院内における連携機能やベッドコントロール機能など、入退院支援の機能強化を行った。患者サービスにおいては、待ち時間短縮等への取組みを行い、満足度調査は5段階評価で概ね4点以上を維持している。新型コロナウイルス感染防止の観点から開催を見送っていた市民公開講座を再開するとともに、ソーシャルメディアを活用した積極的な情報発信を行うなど広報の充実を図り、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。

項目	令和5年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント															
(2) 地域医療機関等との連携	<p>●地域のニーズや役割把握のため、医療機関へのヒアリングやアンケートを実施。 ●地域医療機関との連携強化のため、紹介実績データの整理、PRツールの拡充、ヒアリングやアンケートなど、院内の営業戦略を検討するチームが中心となり、取組みを推進。両病院において、地域医療機関を対象とした医療連携の会を開催。 ●地域医療機関との信頼関係構築による紹介率・逆紹介率の向上。 ●紹介受診重点医療機関の認定に向けて、医療センターでは、外来機能報告等の必要な作業を実施し、認定を取得。 ●かかりつけ医に対する支援充実に向けて、紹介患者の優先的な対応や医療従事者向けの研修会を開催。 ●医療提供機能の相互支援(医療センターと八幡病院)の充実に向けて、多職種における人事交流。 ●市内及び市近郊の消防署への訪問や、救命救急士への実地研修等を開催し、消防局との連携を強化。</p> <table border="0"> <tr> <td>・紹介患者数</td> <td>医療センター: 11,127人(前年度 10,511人)</td> <td>八幡病院: 6,791人(前年度 7,502人)</td> </tr> <tr> <td>・紹介率</td> <td>医療センター: 93.5%(前年度 85.1%)</td> <td>八幡病院: 85.0%(前年度 78.7%)</td> </tr> <tr> <td>・逆紹介率</td> <td>医療センター: 92.5%(前年度 88.5%)</td> <td>八幡病院: 100.1%(前年度 94.7%)</td> </tr> <tr> <td>・共同利用件数(開放病床)</td> <td>医療センター: 68件(前年度 63件)</td> <td>八幡病院: 44件(前年度 19件)</td> </tr> <tr> <td>・地域医療連携会議参加人数</td> <td>医療センター: 193人(前年度 99人)</td> <td>八幡病院: 281人(前年度 0人)</td> </tr> </table>	・紹介患者数	医療センター: 11,127人(前年度 10,511人)	八幡病院: 6,791人(前年度 7,502人)	・紹介率	医療センター: 93.5%(前年度 85.1%)	八幡病院: 85.0%(前年度 78.7%)	・逆紹介率	医療センター: 92.5%(前年度 88.5%)	八幡病院: 100.1%(前年度 94.7%)	・共同利用件数(開放病床)	医療センター: 68件(前年度 63件)	八幡病院: 44件(前年度 19件)	・地域医療連携会議参加人数	医療センター: 193人(前年度 99人)	八幡病院: 281人(前年度 0人)	4	4	<p>○紹介患者数・紹介率・逆紹介率は、両病院ともに増加・向上している。</p> <p>○消防局との連携も強化しており、年度計画を上回って実施していると言え、評価「4」とした。</p>
・紹介患者数	医療センター: 11,127人(前年度 10,511人)	八幡病院: 6,791人(前年度 7,502人)																	
・紹介率	医療センター: 93.5%(前年度 85.1%)	八幡病院: 85.0%(前年度 78.7%)																	
・逆紹介率	医療センター: 92.5%(前年度 88.5%)	八幡病院: 100.1%(前年度 94.7%)																	
・共同利用件数(開放病床)	医療センター: 68件(前年度 63件)	八幡病院: 44件(前年度 19件)																	
・地域医療連携会議参加人数	医療センター: 193人(前年度 99人)	八幡病院: 281人(前年度 0人)																	

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 収入増加・確保対策																
(1) 病床利用率の向上	<p>●目標数値の設定、達成状況の確認や原因分析など、目標管理の徹底。 ●新型コロナウイルスの増減に合わせて一般病床を増減させるなど、柔軟な見直しを実施。 ●病床稼働率の向上に向けて、各病院において、ベッドコントロールの効率化や入院退院支援体制の充実に取り組んだ。 ●救急患者の積極的な受入れや体制強化。 ・医療センター: 救急車受入件数の目標2,000件を達成(2,436件)。 地域の診療所との機能分化を進めるため、外来予約センターにおいて、原則予約制や二次検診・個人紹介予約を実施。 病床再編を実施したことでより柔軟な入院受入を実現。 ・八幡病院 : 市内及び市近郊の消防署や地域の医療機関等への訪問を行い連携体制を強化。 積極的な救急受入を実施し、目標件数4,000件を達成(4,654件)。 R6年度のベッドコントロール室設置に向けた検討を実施。</p> <table border="0"> <tr> <td>・病床利用率(全体)</td> <td>医療センター: 75.7%(前年度 72.3%)</td> <td>八幡病院: 72.0%(前年度 68.1%)</td> </tr> <tr> <td>・外来患者数</td> <td>医療センター: 248,880人(前年度 248,041人)</td> <td>八幡病院: 125,994人(前年度 104,810人)</td> </tr> <tr> <td>・入院患者数</td> <td>医療センター: 143,752人(前年度 137,763人)</td> <td>八幡病院: 82,203人(前年度 77,525人)</td> </tr> <tr> <td>・手術件数</td> <td>医療センター: 3,893件(前年度 3,674件)</td> <td>八幡病院: 2,145件(前年度 2,037件)</td> </tr> </table>	・病床利用率(全体)	医療センター: 75.7%(前年度 72.3%)	八幡病院: 72.0%(前年度 68.1%)	・外来患者数	医療センター: 248,880人(前年度 248,041人)	八幡病院: 125,994人(前年度 104,810人)	・入院患者数	医療センター: 143,752人(前年度 137,763人)	八幡病院: 82,203人(前年度 77,525人)	・手術件数	医療センター: 3,893件(前年度 3,674件)	八幡病院: 2,145件(前年度 2,037件)	3	3	<p>○ベッドコントロールの効率化など、利用率向上に向けた取組みを行っているものの、コロナ禍以前の水準には回復していない。 ・医療センター [R1:80.6%→R2:69.3%→R3:73.1%→R4:72.3%→R5:75.7%] ・八幡病院 [R1:80.8%→R2:64.1%→R3:67.1%→R4:68.1%→R5:72.0%]</p> <p>○病床利用率向上及び患者確保に向け、救急患者の積極的な受入れや体制強化に努めており、年度計画を順調に実施していると言えることから、評価「3」とした。</p> <p>○病床利用率のさらなる向上への取組により、目標達成できるよう期待する。</p>
・病床利用率(全体)	医療センター: 75.7%(前年度 72.3%)	八幡病院: 72.0%(前年度 68.1%)														
・外来患者数	医療センター: 248,880人(前年度 248,041人)	八幡病院: 125,994人(前年度 104,810人)														
・入院患者数	医療センター: 143,752人(前年度 137,763人)	八幡病院: 82,203人(前年度 77,525人)														
・手術件数	医療センター: 3,893件(前年度 3,674件)	八幡病院: 2,145件(前年度 2,037件)														
(2) 適切な診療報酬の確保	<p>●診療報酬制度や医療事務等の専門的知識や経験を有する人材を中心にプロパー職員を採用。 ●新規採用職員研修や階層別研修を実施したほか、各病院において院内教育やWeb研修受講を推進。 ●令和6年度に向けて、病院医療事務経験者8名(令和5年度は2名)を採用。 ●令和6年度の診療報酬改定に備え、両病院において改定対応チームを編成し、関係部門が適宜連携しながら情報共有するなど適切に対応。 ●診療報酬請求に精通した職員の確保・育成、査定結果の分析や対策に関する勉強会を開催。 ●施設基準の積極的な取得、医学管理科・リハビリテーション科の算定率向上に努め加算による増収。 ・医療センター: 急性期充実体制加算など、新たに25件の施設基準を届出。 加算による増収額は、前年比+1.9億円(独法化後の累計は+7.6億円)。 ・八幡病院 : ハイケアユニット入院医療管理料1など、新たに8件の施設基準を届出。 加算による増収額は、前年比+0.6億円(独法化後の累計は+4.7億円)。 ●未収金の発生防止に向けた既存の対策を徹底するとともに、弁護士委託など新たな未収金回収策の導入に向け検討。 ・市派遣職員比率 医療センター: 21.2%(前年度 25.8%) 八幡病院: 26.7%(前年度 29.6%) ・査定減比率 医療センター: 0.40%(前年度 0.39%) 八幡病院: 0.48%(前年度 0.35%) ・医療費徴収率 医療センター: 99.7%(前年度 99.7%) 八幡病院: 99.7%(前年度 99.6%)</p>	4	4	<p>○適切な診療報酬の確保に向け、専門的知識や経験を有する人材の採用など、年度計画に基づいた取組を順調に実施している。</p> <p>○その成果として、新たな施設基準の届出[医療センター25件、八幡病院8件]で、加算による増収は、両病院合計で前年比2.5億円となったことは評価できる。</p> <p>○市派遣職員比率は、両病院ともに低下。</p> <p>○査定減比率は両病院ともに上昇したものの、低水準を維持。</p> <p>○医療費徴収率は両病院ともに高水準を維持。</p> <p>○以上のことから、年度計画を上回って実施していると言えるため、評価「4」とした。</p>												

項目	令和5年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
2 経費節減・抑制対策				
(1) コスト節減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●調達部門の専任職員が中心となり医薬品や診療材料の調達コスト削減。 ●機器購入時の保守複数年一体契約のほか、損害保険の活用など、保守金額の削減に向けて選択肢の幅を広げた。 ●医薬品や診療材料の調達について、全国規模の共同購入組織への参画を継続、個別の価格交渉を徹底。 ・年間削減効果額 医療センター:55百万円(前年度 39百万円) 八幡病院:48百万円(前年度 31百万円) ●後発医薬品について、診療報酬の加算が得られる採用率90%を維持できるよう、切換えを随時実施。 ・後発医薬品採用率 医療センター:92.3%(前年度 92.9%) 八幡病院: 91.4%(前年度 90.4%) 	4	4	<p>○調達部門への専任職員が中心となり経費縮減への取組が進んでいることは評価できる。</p> <p>○後発医薬品採用率について、医療センターは92.3%、八幡病院は91.4%で、令和5年度の目標値90.0%を達成している。</p> <p>○以上のことから、年度計画を上回って実施していると言えるため、評価「4」とした。</p>
(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備	<ul style="list-style-type: none"> ●各病院が保有する医療機器を有効活用するため、稼働状況を把握、必要に応じて共同利用や移設を検討。 ●各病院の臨床工学課において機器の中央管理を行うとともに、一部修繕の内製化を実施。 ●医療機器の新規導入・更新については、第2期中期計画期間中の黒字化を前提とした購入計画に基づき予算を確保。 ●新たに購入する医療機器等については、機構全体で情報共有し、可能な限り両病院での規格統一を検討する仕組みを構築。 ●令和10年度に両病院の電子カルテ共通化の方針の下、医療センターの電子カルテを更新。 	3	3	<p>○医療機器等の稼働状況を把握し、両病院間での共同利用を検討するなど、積極的に有効活用を行っている。医療センターにおいて電子カルテを更新したことや医療機器等の規格統一化への検討など、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>
3 自立的な業務運営体制の構築				
(1) マネジメント体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ●機構幹部職員で構成する経営本部会議を毎月開催し、理事会上程議案の審議、病院経営に関する重要事項や経営状況の情報共有を行った。 ●市の定める第2期中期目標に従い、市と綿密に協議を実施しながら第2期中期計画を策定。 ●年度計画掲載事業等は、工程表を作成して進捗を管理したほか、月次決算によって毎月の目標達成状況等を情報共有。 ●事務部門の体制強化に向けて、病院経営に精通した民間人材を登用。 ●機構本部広報担当ラインと両病院が連携し、これまでの実績・取組みを基にした集患につながる広報戦略を検討。 ●理事長・院長等による部門別の経営ヒアリングを実施。 	3	4	<p>○幹部職員で構成する「経営本部会議」を毎月開催し、病院経営状況の管理体制を強化し、毎月の目標管理と要因分析など経営課題に迅速に対応するための取組が推進されていることは評価できる。</p> <p>○理事長のリーダーシップの下、主体的かつ機動的な意思決定システムが構築され、マネジメント体制を確立している。</p> <p>○市と綿密に協議しながら第2期中期計画を策定しており、年度計画を上回って実施していることから、評価「4」とした。</p>
(2) 職員の経営意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●職員向け広報誌の発行や経営状況説明会を開催。 ●事務職員の役割や働き方に関して、先進的な取組を行う他の公立病院幹部を招いた講演会や意見交換会を実施。 ●診療科別ヒアリングや経営状況説明会を実施、職員の意見や提案を聴取するための取組を実施。 	3	3	<p>○職員向け広報誌の発行や経営状況説明会の開催、先進的な取組を行う他の公立病院幹部を招いた講演会の実施など、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>
(3) 法令・行動規範の遵守等	<ul style="list-style-type: none"> ●法令・行動規範の遵守に向けて、内部規定の運用や職員研修を実施。 ●ハラスメント対策専門官による相談や弁護士による外部相談を受けるとともに、職員向けの啓発や研修を実施。 ●不正防止対策に向けて、不祥事防止・ハラスメント研修を実施、電子署名の厳格な管理・運用を行うために電子署名規程を策定。 ●サイバー攻撃に備え、サイバーセキュリティ保険への加入を継続。 	3	3	<p>○内部規程の整備をはじめ、法令・行動規範遵守のための研修を実施しているほか、セキュリティポリシーの運用やサイバーセキュリティ保険への加入継続など、診療情報保護対策に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>
4 職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●全職種の職員で構成する「働き方改革研究会」の提言(令和元年度)を踏まえ、年度計画に基づく取組みを進めた。 ●医療スタッフの負担軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助者及び病棟クラークを配置。 ・コンサルタントの支援を受けながら、看護師の業務改善に関する研修や他病院との意見交換を実施。 ●看護師の夜勤負担の平準化に向け、新人看護師の夜勤開始時期の前倒しや、夜勤免除者の配置部署の検討などを実施。 ●定年延長の導入について、他の公立病院等の情報収集や北九州市(制度導入済み)との情報交換等を実施。 ●手当の拡充のほか、看護職の変則2交代などの柔軟な勤務形態導入に向けた検討を実施。 ●医師に、診療実績などの病院経営に対する貢献度を評価し、評価結果を給与に反映させるインセンティブ制度を運用。制度改正に向け、コンサルタントの支援による調査・研究を開始。医師以外の職種についても、制度導入に向け、調査・研究を開始。 ●デジタル化 <ul style="list-style-type: none"> ・医師等の勤怠管理システムの稼働開始。 ・人事給与システムをクラウド化し、アクセスの利便性を向上。 ・AIレセプトチェッカーの導入を検討。 ●職員の役職や習熟度に応じ、新規採用職員研修や階層別研修を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師離職率 医療センター 7.1%(前年度 8.1%) 八幡病院 10.7%(前年度 8.8%) 	4	4	<p>○「働き方改革研究会」の提言を踏まえ、医師・看護師等の負担軽減や手当の拡充、医師のインセンティブ制度の運用など、長く働き続けることができる職場環境づくりに積極的に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>○人事給与システムをクラウド化し、アクセスの利便性を向上させるなど、デジタル化を推進させたほか、柔軟な勤務形態の導入に向けた検討や各種研修実施など、職場環境の充実が図られており、年度計画を上回って実施していると言えることから、評価「4」とした。</p>

項目	令和5年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置				
1 財務基盤の安定化				
ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ●月次決算等による経営情報の把握、部門別の課題の分析、経営課題、経営情報の共有。 ●工程表作成による進捗管理、毎月の目標達成状況等を情報共有。 ●目標達成に対するインセンティブとして、診療実績などの病院経営に対する貢献度を評価し、評価結果を給与に反映させるインセンティブ制度を令和3年度から医師に導入し、運用。令和5年度から制度改正に向けてコンサルタントの支援による調査・研究を開始。 ・医師以外の職種についても、制度導入に向けて調査・研究を開始。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○効率的な病院運営を推進するため、月次決算等による経営情報の把握や目標管理の継続、経営再建方針に基づく取組の進捗状況等の情報共有を実施するなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。 ○令和6年度についても、財務基盤の安定化に向け経営課題を明確にし、中期計画や年度計画の取組を着実に進める必要がある。
イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ●県からの新型コロナウイルス補助金が大幅に減少したほか、新型コロナによる患者減の影響継続、光熱費等の価格高騰により、4年ぶりに営業収支及び経常収支が赤字に転換。 ●経営再建方針に基づき、地域連携や救急による患者増、加算による単価増などの収益増加のほか、医薬品・診療材料・医療機器等の価格削減、委託の見直しなどの費用削減に取り組んだ。 ・営業収支 ▲20.5億円(予算比:▲5.9億円、決算比:▲34.9億円) ・経常収支 ▲19.0億円(予算比:▲5.1億円、決算比:▲34.3億円) ・営業収支比率 法人全体:93.5% 医療センター:95.3% 八幡病院:95.5% ・経常収支比率 法人全体:94.0% 医療センター:95.7% 八幡病院:95.6% 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響による患者減や光熱費等の価格高騰の影響はあったものの、営業収支及び経常収支ともに令和元年度以来4年ぶりの赤字となったため、評価「2」とした。 ○新型コロナウイルス感染症に関する県の補助制度に依存しない自立的な経営に向けた体質改善を進めていく必要がある。
ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れや返済等、長期的な資金収支の均衡を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●営業収支及び経常収支が赤字にもかかわらず資金収支が増加しているが、これは毎年度行っている移行前地方債償還金等の市への返済が、令和5年度分については令和6年度に繰延されたことによるものであり、実質的な資金収支の改善には繋がっていない。 ・単年度資金収支 2.2億円(予算比:+13.5億円、決算比:▲18.5億円) ・年度末資金剰余 68.5億円(予算比:+13.5億円、決算比:+2.2億円) 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○単年度資金収支が実質的にマイナスで、年度末資金剰余も実質的に減少したことから、評価「2」とした。 ○新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度に依存しない自立的な経営に向けた体質改善を進めていく必要がある。
2 運営費負担金のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ●市からの運営費交付金が国の基準に基づいて適切に交付されるよう、市と協議。 ・令和5年度の運営費負担金の実績 総額 30.2億円 (内訳) ・感染症医療 1.3億円 ・院内保育所運営費 0.4億円 ・同産期医療 5.2億円 ・企業債元利償還金 7.6億円 ・小児救急を含む救急医療 14.9億円 ・看護師養成費 0.8億円 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○運営費負担金を適切に執行していることから、評価「3」とした。
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置				
1 看護専門学校の運営	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床看護及び教育の質の向上に向けて、看護教育人材の確保、教育環境の整備、学習教材の充実などの取組を進めた。 ●将来の電子テキスト導入に向け、業者選定や端末についての検討を実施。 ●学校施設・設備・教材を機構本部・医療センターに貸し出したほか、オープンキャンパスを実施。 ●卒業生の市内就職率の向上に向けて就職説明会等での働きかけや、卒業生へのフォローアップとして個別相談対応を実施。 ●看護専門学生から定額の「実習関連費」を徴収。 ●民間の看護専門学校との均衡等を考慮し、授業料見直しの検討を行った。 ●卒業生の市内就職率向上。 ・卒業生の市内就職率 97.4%(前年度 90.2%) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ効率的な運営を行うとともに、学生の学業に対する負担感を軽減する取組を検討している。 ○年度計画を順調に実施し、卒業生の市内就職率が97.4%と年度計画を上回る水準を維持しているものの、看護専門学校の経営状況等を勘案し、評価「3」とした。
2 施設・設備の老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> ●医療センターの老朽化対策等について、令和3年度に策定した基本方針や設備改修計画に基づき、令和5年度予定分を適切に実施。 ●建築後30年以上が経過し老朽化が進んでいる医療センターについて、建替えの検討の基本となる適切な機能や規模など、今後の医療センターのあり方に関する検討会の設置に向け、市と協議を開始。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○医療センターの老朽化対策を計画的に実施するとともに、将来的な施設更新に向けて市と協議を開始し、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。
3 市政への協力	<ul style="list-style-type: none"> ●市が進める保健・医療施策について積極的な役割を果たすため、組織トップから事務レベルまで様々な階層において、緊密に連携。 ●市の定める第2期中期目標の実現に向け、市と綿密な協議のもと第2期中期計画を策定。 	4	5	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も積極的に入院患者を受け入れたほか、市の定める第2期中期目標の実現に向け第2期中期計画を策定するなど、市立病院機構としての責務を認識し市政に協力したため、評価「5」とした。